

二〇一九年度

小学校教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅱ)

国語

注意事項

- 受験者は、左記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験運営大学の指示によること。
- 一、試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
 - 二、運営大学名、氏名、受験番号、受験科目を二〇一九年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
 - 三、受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
 - 四、解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
 - 五、解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
 - 六、マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
 - 七、この試験の解答時間は、「始め。」の合図があったから五〇分です。
 - 八、試験が終わるまで退室できません。
 - 九、試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。
 - 十、下書きには問題冊子の余白を使用してください。
 - 十一、試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

[マーク例]

(よい例) ●

(悪い例) ⊕ ⊗ ⊖ ⊙

以下の問いにおいて「小学校学習指導要領」とは、「小学校学習指導要領」(平成二十九年三月文部科学省告示)第2章 第1節 国語を指し、『小学校学習指導要領解説』とは、「文部科学省『小学校学習指導要領(平成二十九年告示)』解説 国語編」(平成二十九年七月)を指すものとする。

問一 『小学校学習指導要領解説』第1章 総説「2 国語科の改訂の趣旨及び要点」の② 学習内容の改善・充実には、内容の改善・充実がはかられた項目が五つ示されている。次のア～エのうち、この五つの項目にあてはまらないものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 語彙指導の改善・充実
- イ 音読、朗読指導の改善・充実
- ウ 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視
- エ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

問二 次のA～Dは、「小学校学習指導要領」の2 内容における〔知識及び技能〕の① 言葉の特徴や使い方に関する事項に示されている事項である。A～Dに示した内容と、指導すべき学年との組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- A 文章を音読したり朗読したりすること。
- B 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- C 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
- D 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。
- ア Bは〔第1学年及び第2学年〕、Aは〔第3学年及び第4学年〕で指導すべき事項である。
- イ Bは〔第3学年及び第4学年〕、Aは〔第5学年及び第6学年〕で指導すべき事項である。
- ウ Dは〔第1学年及び第2学年〕、Cは〔第3学年及び第4学年〕で指導すべき事項である。
- エ Dは〔第3学年及び第4学年〕、Cは〔第5学年及び第6学年〕で指導すべき事項である。

問三 次のA～Dは、「小学校学習指導要領」の「2 内容」における「知識及び技能」の「③」我が国の言語文化に関する事項」に示されている事項である。

A～Dに示した内容と、指導すべき学年との組合せとして正しいものを、後のA～Eの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- A 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。
- B 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。
- C 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
- D 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

- ア 〔第3学年及び第4学年〕―AとD 〔第5学年及び第6学年〕―BとC
- イ 〔第3学年及び第4学年〕―AとC 〔第5学年及び第6学年〕―BとD
- ウ 〔第3学年及び第4学年〕―BとC 〔第5学年及び第6学年〕―AとD
- エ 〔第3学年及び第4学年〕―BとD 〔第5学年及び第6学年〕―AとC

問四

次の文章は、二年生の児童が三学期に書いた文章の一部である。「小学校学習指導要領」² 内容における「知識及び技能」に示されている事項に基づいた漢字等の指導として正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(二年生の児童が書いた文章の一部)

ふゆの朝、学こうでうさぎの赤ちゃんが生まれました。わたしは休み時間に見た赤ちゃんうさぎのようすをのーとに書きました。そのあとみんなで話し合い、このうさぎをそだてることにきめました。

ア 「きめました」の「決」は二年生の配当漢字であるので、確実に漢字で書けるように指導し、「そだてる」の「育」は三年生の配当漢字であるので、特に指導しない。また、「のー」は片仮名で書く語であることを指導する。

イ 「ふゆの朝」の「冬」は一年生の配当漢字であるので、確実に漢字で書けるように指導し、「学こう」の「校」は二年生の配当漢字であるので、少しずつ漢字で書けるよう指導していく。また、「のー」は三年生で教える事項なので、ここでは指導しない。

ウ 「そだてる」の「育」は二年生の配当漢字であるので、確実に漢字で書けるように指導し、「きめました」の「決」は三年生の配当漢字であるので、特に指導しない。また、「のー」は三年生で教える事項なので、ここでは指導しない。

エ 「学こう」の「校」は一年生の配当漢字であるので、確実に漢字で書けるように指導し、「ふゆの朝」の「冬」は二年生の配当漢字であるので、少しずつ漢字で書けるよう指導していく。また、「のー」は片仮名で書く語であることを指導する。

問五 次の四点は、「小学校学習指導要領」の「第3学年及び第4学年」の「2 内容」における「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」の(1)に示されている指導事項である。文中の空欄 A、B、C、D に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・ 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を A たり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- ・ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の B を考えること。
- ・ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、 C などを工夫すること。
- ・ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、 D をもつこと。

	A	B	C	D
ア	比較し	骨子	声の出し方	共感的態度
イ	関係付け	構成	声の出し方	自分の考え
ウ	関係付け	骨子	間の取り方	共感的態度
エ	比較し	構成	間の取り方	自分の考え

問六 「小学校学習指導要領」の「2 内容」における「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」の(2)に示されている言語活動例について、指導すべき学年と言語活動例との組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「第1学年及び第2学年」―互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。
- イ 「第3学年及び第4学年」―紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。
- ウ 「第3学年及び第4学年」―インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
- エ 「第5学年及び第6学年」―意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。

問七

「小学校学習指導要領」の「2 内容」における「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」の(1)に示されている指導事項のうち、「第1学年及び第2学年」で指導すべき事項に含まれないものを、次のア、イ、エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
- イ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
- ウ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
- エ 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。

問八

「小学校学習指導要領」の「2 内容」における「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」の(2)に示されている言語活動例のうち、「第5学年及び第6学年」に含まれないものを、次のア、イ、エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
- イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。
- ウ 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
- エ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

問九 次の四点は、「小学校学習指導要領」の〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容」における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の(1)に示されている指導事項である。文中の空欄 A、B、C、D に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・ A の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
- ・ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて B すること。
- ・ 登場人物の気持ちの変化や性格、 C について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。
- ・ 文章を読んで感じたことや考えたことを D し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

	A	B	C	D
ア	段落相互	抽出	背景	共有
イ	段落相互	要約	情景	共有
ウ	事実と意見	抽出	情景	交流
エ	事実と意見	要約	背景	交流

問十 「小学校学習指導要領」の「2 内容」における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の(2)に示されている言語活動例について、指導すべき学年と言語活動例との組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 〔第1学年及び第2学年〕―学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。
- イ 〔第3学年及び第4学年〕―学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。
- ウ 〔第3学年及び第4学年〕―詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
- エ 〔第5学年及び第6学年〕―読み聞かせを聞いたたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

問十一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

茂木健一郎・黛まどか
『俳句脳 発想、ひらめき、美意識』

承諾を得ておらず不掲載

右の文章中の傍線部A「宇宙的なところ」とは、どのようなことを言ったものか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 短い詠嘆に、無限の広がりを見いだせること。
- イ 短い詠嘆だが、そのモチーフが極めて幅広いこと。
- ウ 一瞬の自然の移ろいに、作者の人間性が見えること。
- エ 一瞬の自然の移ろいを捉え、普遍的なテーマに昇華すること。

問十二 問十一の文章中の傍線部B「万物自然を隠喩にし」とは、どのようなことを言ったものか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 万物自然がすみれの花の周りにあるということ。
- イ 万物自然をすみれの花に託しているということ。
- ウ すみれの花は万物自然の仮の姿であるということ。
- エ すみれの花は万物自然とは違う存在であるということ。

問十三 問十一の文章中の傍線部C「形而上」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 無機質なもの
- イ 想像できないもの
- ウ 形をもっていないもの
- エ 言葉で表しにくいもの

問十四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この世に、いかでかかることありけむと、めでたくおぼゆることは、文こそはべれな。『枕草子』に返す返す申してはべるめれば、こと新しく申すに及ばねど、なほいとめでたきものなり。遙かなる世界にかき離れて、幾年あひ見ぬ人なれど、文といふものだに見つれば、ただ今さし向かひたる心地して、なかなか、うち向かひては思ふほども続けやらぬ心の色もあらはし、言はまほしきことをもこまごまと書き尽くしたるを見る心地は、めづらしく、うれしく、あひ向かひたるに劣りてやはある。

(新編日本古典文学全集『無名草子』)

右の文章中の傍線部A「申してはべるめれば」の口語訳として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 申し上げてありますようなら
- イ 申し上げて仕えているようなら
- ウ 申し上げてありますようですので
- エ 申し上げて仕えているようなので

問十五 問十四の文章中の傍線部B「劣りてやはある」の「やは」の文法的な説明と傍線部の口語訳として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「やは」は疑問の助詞で、「劣っているのか」の意味である。
- イ 「やは」は反語の助詞で、「少しも劣らない」の意味である。
- ウ 「やは」は強意の助詞で、「全く劣っている」の意味である。
- エ 「やは」はとりたての助詞で、「劣ってはいる」の意味である。

問十六 問十四の文章の中で述べられている内容として含まれていないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 枕草子に書かれている文章は、素晴らしいと思えるものばかりである。
- イ 思っていて言いにくいことでも、手紙なら書き表せる。
- ウ 手紙では、言いたいことをつぶさに書き表すことができる。
- エ 手紙は、遠いところに住んでいる人でも、向かい合っている気持ちになる。

問十七 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

周公没^{シテ}、聖人之道不行^{ハレ}。孟子死^{シテ}、聖人之学不^レ伝^{ハラ}。道不^レ行^{ハレ}、百世無^シ善治^ヲ。学不^レ伝^{ハラ}、千載無^シ真儒^ヲ。無^ク善治^ヲ、士猶得^レ明^{カニスルヲ}。夫善治之道^ヲ、(中略)無^ク天下賢^{トシテ}焉、莫^シ知^{ルコトヲ}所^レ之^ク。

(新釈漢文大系『十八史略』)

右の文章中の傍線部A「百世無^シ善治^ヲ」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 百年もの間、優れた治療方法が見つからない。
- イ いつまでたつてもりっぱな政治は実現しない。
- ウ 何世代にもわたって誰も国を治めようとしなない。
- エ これまで長い間、優れた治水管理がなされてはいない。

問十八 問十七の文章中の空欄 B に入る言葉(二字の漢字)として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 聖人
- イ 善治
- ウ 千載
- エ 真儒

問十九 次は、二十四節気に含まれる四つの語である。冬の「大寒」を起点として、これらを季節の変化に従い並べたものとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 立春↓啓蟄↓穀雨↓夏至
- イ 啓蟄↓立春↓夏至↓穀雨
- ウ 立春↓啓蟄↓夏至↓穀雨
- エ 啓蟄↓立春↓穀雨↓夏至

問二十 「読む」という動詞は、「…することができる」という意味をもつ可能動詞にすると「読める」となる。次のア～エの語のうち、可能動詞として誤っているものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 寝れる
- イ 飛べる
- ウ 走れる
- エ 乗れる